

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300140		
法人名	有限会社 ゆとり		
事業所名	グループホーム ゆとり苑		
所在地	佐賀県小城市三日月町甲柳原170-2		
自己評価作成日	平成22年1月5日	評価結果市町村受理日	平成22年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人佐賀県社会福祉会
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成22年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者・職員とともに日常的な外出や楽しみを共有し、安心とやすらぎのある家庭的な環境を心がけ支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな田園地帯の中に位置するグループホームである。苑の理念である「その人らしく、心豊かに、安心と安らぎのある暮らし」ということが、管理者を中心に日々のケアの中に活かされている。近所からの問題を抱えた高齢者の相談にも気軽に対応され、見守り、訪問等が行われるなど、地域の福祉の拠点といった役割も担うようになってこられている。“困っておられる家族に、できる人が何かできる事があればそれをやる。”といった管理者の思いを、入居者のもとより、近隣の方にも同様に接しておられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は住み慣れた場所で地域との共生を目指した内容で毎日の朝礼後に、全員で唱和することで意識づけを行い、また日常のケアを通して感じたことは、その都度職員で共有していくようにしている。	「その人らしく、心豊かに、安心と安らぎのある暮らし」という理念が職員にも周知され、管理者を中心とした、入居者一人ひとりのケアに活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が地域の近隣者にも気軽に挨拶を交わし自治会の活動にも参加している。	地域行事へも積極的に参加され、地域との関わりは密にとられている。近所からの情報で、問題を抱えた近所の高齢者の見守り、訪問、相談にも気軽に対応され、地域の福祉の拠点といった役割も担うようになってこられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が訪問、相談にこられた時はきちんと対応し、話を聴くようにしている。また内容も納得し、喜んでもらえる対応を心がけている。対応ができない時は、名前を聞いて、後日に話を聞くようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容はきちんと報告し、意見等があったときは朝礼や全体会議の中で話し合いをもち、全員で今よりもサービス向上につながるように努力している。	入居者、家族はじめ、市、地区の役員等のほか、他グループホームの管理者の出席もあり、多方面からの意見の収集に努められている。出された意見はホームの運営に活かされ、運営推進会議がより実りあるものとなるよう常に検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者のサービスの質の向上等についてスタッフは市町村の担当者と接点をもち積極的な連携が保たれている。	運営推進会議の開催をきっかけに、小城市北部地区高齢者安心ネットワークが作られ、同業者や異業種間での連携にもつながり、市町とは積極的な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は開放し、行動が活発な利用者に対しては行動パターンを把握して、職員間での声かけをしながら、所在確認を行っている。原則として身体拘束はしていない。	定期的に勉強会が開かれると共に、外部の研修にも参加され、身体拘束をしないケアの大切さを職員全体で理解されている。現在、玄関の施錠を含め拘束は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の中で利用者個々の状態を共有し、職員の言葉づかいや声のトーン、動作などが利用者にも与える影響など認識し、業務の中で気づいた時はお互いに、注意をしようように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、報告を通して権利擁護に関する制度を理解し、必要に応じて家族等に支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、家族より不安や心配事などを聞いて説明、理解していただき、納得された上での契約をしている。今のところ解約は行っていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者との会話時間を多く持ち、何でも話せる雰囲気を作っている。また家族の面会時には、気軽に話し合いや相談ができていて信頼関係を築いている。	意見等が言いやすい雰囲気作りや関係作りに努められ、面会時や家族会等を中心に、意見の収集に努められている。出された意見は全体で話し合い、サービスの向上につなげられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務の中での気づきや意見は、口頭での話し合いをしたり、後日職員で意見交換の場を作り、改善点の話し合いをすることを大切にしている。	毎月の会議や、毎日の申し送り時に情報や意見を交換し、そこでの意見をもとに全体で協議しながら運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き入れるようにし、一人ひとりが向上心をもって働けるような、ゆとりのある職場環境の整備促進に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容等は、職員に参加を促すことで、職員も快く参加ができている。また研修を受ける機会の確保はできている。研修内容は一部業務の中に取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流会を開き、季節の催しや外食などを通して、利用者や職員同士の交流を深め、情報交換など行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に利用者の希望や思いを把握した上で、本人が安心できるように勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けたときは不安、要望など時間をかけて聞き入れることで、安心した表情で話をして頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の相談内容により、その方にとって一番必要なサービス支援を見極めて、対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共同生活をしていくうえで、利用者からたくさん学びがあり、共に生活しながら利用者に尊厳を持って、共に助け合いながら過ごして行きたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、本人と家族が楽しく会話をしながら一緒に時間を過ごせるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会時には、気兼ねなく話ができるように居室に案内して、以前の生活習慣が途切れないように、自由に過ごしていただくことを大切にしている。	入居者のほとんどが市内の方で、家族や友人の訪問も多く、入居前の関係が途切れないよう支援されている。外出時に自宅周辺や、馴染み深い場所への訪問も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングには必ず職員が配置し、利用者が孤立しないように言葉かけを行いながら見守りをする。また元気な利用者が面倒を見たりお世話をし、馴染みの関係ができていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族が来苑して、相談などの支援を行ったり、また家族を訪問したりしながらフォローも続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に家族と共に本人の生活習慣や家族の希望を聞き入れて意向の把握に努めている。入所困難と思われるときもできるだけ様子観察を行い検討をすることで拒否はしていない。	日常の会話や、散歩、ドライブの際などを利用し、機会あるごとに思いの把握に努められている。言葉で表せない方でも、表情や行動の背景にある思いがつかめるよう、管理者を中心に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や家族の面会時には情報収集を行わない、今は家族との信頼関係ができてきて、家族より新たな詳しい情報収集もできている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態や現状を職員全員で交換し、気づきがあれば申し送りノートやケアノートに記入することで、情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	無理な計画書は作成せずに、身近なできることから計画書を作成して、出来たことで意欲の向上につなげている。また利用者の状態は面会時に報告して家族の思いや意見を聞くようにしている。	入居者、家族の希望を確認し、全体で話し合い計画が作成されている。毎月のモニタリング、3ヶ月ごとの評価、見直しを含め、状態の変化による随時の見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用し、全員が確認してサインをする。また業務の中での気づきは都度伝えることで、情報を共有しながらケアの統一を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない通院支援を行い、その後の結果報告と、後の対応について相談を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向や必要性に応じて、利用者と一緒に図書館より雑誌、ビデオ、CDなどを利用し、地域ボランティアのサービスも利用している。」		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の医療機関受診の支援や、協力医療機関への受診体制を行なっている。また個々の毎月の定期受診を行なっている。	入居者や家族の希望のもと、かかりつけ医や協力医療機関での受診が行われている。緊急時は協力医療機関のもとで24時間対応可能であり、入院・退院に際しても全面的に支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、訪問看護と連携をとり、利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と医療機関を含め、退院後の対応について話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針に関する同意書に署名、捺印をもらい、かかりつけの医療機関との連携を図り、方針の共有をしている。また家族が遠慮せず話し合いのできる時間を設けている。	ホームの指針が作られ、契約時に入居者、家族に説明されている。意向の確認及び同意書もとられており、状況に応じた話し合いも主治医や家族を交えて実施され、方針を共有されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、すぐに見れるところに置き、緊急連絡もマニュアルを作成して連絡が取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害、火災においては全職員が認識しており、地域の協力においては運営推進会議において、その都度お願いをしている。	夜間、昼間を想定しての訓練が、年2回実施されている。避難経路の確認、避難、消火訓練などが行われ、近隣の住民とも協力を得られる関係が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まず表情や様子をみながら言葉をかけている。否定を、言葉使いや声のトーンに注意をして対応することを心かけている。	声のかけ方、言葉遣いや対応に配慮され、入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう日々努められている。気になる事があれば、管理者を中心にその都度話し合い、入居者の人格が尊重されるよう対応されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態を見ながら安心して話ができる雰囲気作りをして、自己決定ができるような関わり方をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者からの問いかけには後回しにしないでできるだけその場できちんと対応する努力をしている。又対応ができない時は外の職員に声かけを行い対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服着用で違和感がある時は、さり気なく言葉かけを行い更衣を促す。美容室へは家族の協力と職員による送迎を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルで野菜を揃えたり皮むきなど、安全な手作業を行っている。食後の後片付けなどは積極的に利用者の手伝いをしていたっている。	野菜の下ごしらえ、つぎわけ、配膳やテーブル拭き等できるところで活躍の場を設けておられる。職員も同じテーブルで食事を摂られ、会話を楽しみながらさりげない支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、荒刻み食など利用者の状態に合わせて、その時どきに変更し対応している。水分摂取量においては、ジュースや手づくりゼリー、コーヒー、など利用者の好みを聞いて提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるだけ自立を維持するために言葉かけを多くしながら、できない部分は介助している。義歯は職員が手入れの後管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、排泄の言葉かけを行い誘導することで、失敗が少なくなり自立に繋がっている。	自立の方も遠目での見守りが行われ、介助が必要な方には、時間ごとの誘導が実施されている。排泄パターンを把握した誘導により、トイレでの排泄が可能となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員が毎朝排便チェックと状態を把握し、食物繊維や牛乳、ヨーグルトなどで調整している。水分摂取量にも配慮しながら、廊下歩行や苑外散歩等で簡単な運動を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を優先し、無理な入浴はしていない。また順番や仲良し2人で入浴するなど、できることは利用者の希望にそった入浴方法や時間を支援している。	入浴は一日おきに実施され、入居者の状態や希望に応じて対応されている。希望されれば毎日入浴することも可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に昼寝や休憩をされている。又利用者の状態を見ながら、昼夜逆転のないように時間をみて言葉かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や注意事項は個人ファイルに綴り、毎日に服薬はチェック表で確認をしている。また薬に変更がある時は、申し送りノートに記入し全員で確認したらサインをするように統一している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前行われていた写経、読書、生花、散歩、また手伝いなど、個々に楽しみを持っておられる。また利用者間で役割分担などで、積極的に行動されています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候を見なが苑外散歩、ショッピング、苑外行事など外出の機会を作っている。ドライブ、外食などは家族の協力参加もあっている。	買い物への同行、野菜や花への水やり、散歩等日常的に外出する機会を設けておられる。花見や外食などの行事も実施され、家族の協力も得ながら、思いに沿って戸外に出かけられるよう支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人の了解をえて職員が管理をしている。本人の希望があれば職員と一緒に買い物に行きレジでの支払いも言葉をかけながら行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より手紙を頂いたときは電話にて、直接会話することを支援している。また本人の希望時は、こちらから電話をかけて、家族の声をきてもらい安心することができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般的な家庭のものを利用して混乱を防ぐため特別に変化のないように落ち着いた雰囲気を作るようにしている。また季節に応じた変化をつけるために散歩時に摘み取った草花などを利用者が生けられている。	リビングの南側には田園風景が広がり、明るく解放感に満ちている。混乱を招くような光や音等の刺激もなく、季節の花々が飾られる等、入居者の方々が、思い思いの場所でゆっくりくつろいで過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の自由な行き来で、居室内では団らんや交流があり、その時は静かに見守りをしている。リビングではテーブルに集い、音楽を聴きながら昔話などをされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時点で本人と家族により部屋を決めてもらい、家族と相談しながら自宅と変わらないような雰囲気をつくるため、使い慣れたものは持込をお願いしている。	あたたかい雰囲気作りに努められ、それぞれに馴染みの深い家具やテレビ等が持ち込まれている。過ごしやすい様に状況を見ながら、部屋の模様替えがなされるなど、居心地良く過ごせるよう常に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内の生活空間では、段差解消と廊下、トイレ、等には手すりを設置し、安全で自由な行動ができるようにしている。洗濯物干し竿も、安全に手伝いができるように、高さも調整をしている。各部屋のネームも大きめの文字で表示している。		